刈谷中部地区の皆さまへ　　令和６年１１月

中部地区避難訓練　報告

刈谷中部地区自主防災会　会長　深谷　光秀

刈谷中部地区では、令和６年１１月２４日に、中部地区が主幹を勤める刈谷北高等学校で地震を想定して避難訓練を実施しました。ご参加頂いた皆さまにはお礼申し上げます「お疲れ様でした！」。訓練当日は避難場所となる体育館が工事のため使えず、南駐車場での訓練となりました。風の吹く露天ではありましたが、中部地区からは８５名、東部地区１９名の参加を得ました。施設管理者である刈谷北高等校２名、刈谷市の危機管理課と避難所配置要員９名が参加し、防災会会員２８名とともに訓練しました。避難所配置要員には、避難所に入るための前提となる施設の安全確認資格者が含まれます。

中部地区では、災害が発生したら、自分・家族、ご近所の安全確認をし、自宅が住めないなら避難所へ、自宅で生活できても支援物資受け取り登録のため避難所へ行くとの考えから、① 避難者（被災者）を登録、② 救助の道具や担架搬送、生活インフラが被災した時のトイレ使用、③ 救命・救護（ＡＥＤ、三角巾）の方法について実際の物に触れながら学びました。

自宅避難のためには、食糧・水・調理燃料などが必用になりますが、防災備蓄倉庫見学では「たったのこだけ！」の声、さらに備蓄水は、飲料や調理だけでなく、怪我の洗浄などでも必要なため自助・共助の　重要性が改めて確認できました。

刈谷市からは、災害時にはどんな活動をするのか、また市職員だけでは対処出来ないので、避難者を含めて市民の協力が必用になるとの説明があり、施設管理者（学校）からも避難者の受け入れについての考えが示されました。

なお、今回の訓練では、防災用発電機を使用して拡声器使用訓練スタッフの連絡用無線機を訓練に使用しました。

避難訓練には、住民の皆さま全員の参加が理想ですが、特に班長になったときにはご参加いただきたいとお願いしています。訓練には、自主防災会ばかりでなく、刈谷市や学校との協力体制が徐々に出来つつあります。今年度は、中部ブロック（逢妻川～猿渡川）が一斉に訓練を実施しましたが、次年には中部地区・刈谷市・学校の協力体制、さらには隣接地区との協調を密に確認できる訓練を目指します。中部地区の皆さまには、春の防災訓練、秋の避難訓練などの行事にご参加いただき、必ず起こる災害への備えをお願いします。